

当協会設立「10周年記念事業」のご紹介 第一弾

老舗業界紙「住宅新報社」主催の座談会より(3回に分けて連載・今回は上・中です)

当協会は来年(オリ・パライヤー)7月で10周年を迎えます。そこで全国を応援し更なる拡大の為に色々と記念事業を検討しており、その第一弾として座談会で紹介させて頂きました。

令和元年 7月 1日

一般社団法人日本シェアハウス協会

日本シェアハウス協会

全国開業応援事業がスタート

設立10周年記念座談会 (上)

一般社団法人日本シェアハウス協会は来年7月、設立10周年を迎える。それを記念した座談会が5月29日、住宅新報で開かれた。同協会が記念事業としてこのほどスタートさせた「全国開業応援事業」の趣旨と、「これからの日本社会にシェアハウスは何をもたらすのか」をテーマに語り合った。3週に分けて連載する。

【座談会出席者】
山本久雄氏＝一般社団法人日本シェアハウス協会会長
田中宗樹氏＝同協会副会長・オンコ(株)社長
響城れい氏＝同協会理事・(株)ダブルビーイング社長
李成一氏＝同協会東京都新宿区支部長・ボードレスハウス(株)社長
司会＝本多信博(住宅評論家・住宅新報顧問)



山本久雄氏

山本氏 ことだと思いますが、具体的に



田中宗樹氏

田中氏 生活スタイルを提供することを理念として

司会 来年が協会設立10周年ということで、新たな試みを始めたということですが、山本 協会が個人も含めると182社となり、北海道から九州まで拡大してきました。そこで、10周年(来年7月)を記念してシェアハウス開業に向けた「全国開業応援事業」を強化します。

山本 シェアハウスは全国的に認知されるようになってきたということですね。山本 その通り。今も全国から毎週のように相談を頂いています。ただ、本部での対応力には限界がありますので、かなりお待たせすることが多々あります。そこで、本日参加してもらっています。が、会員社の中で多くの実績があり、豊富なノウハウをお持ちの2社に開業相談の応援をしていただくことにしました。全国的なシェアハウス拡大に拍車をかけるのが目的で、事業名称を「パートナーシップ」としました。

時代が求める「多世代」と「ペット」共生型

います。そこで始めたのが、ペットと共生型という人たちのためのシェアハウスです。これまでに25棟のシェアハウスを手掛けてきました。司会 すごくいいですね。全部ペット共生型ですか? 田中 その通り。ペット共生型を専門に手掛けてきた先駆的会社と自負しています。17年にはこの取り組みが「国土交通省・先駆的空き家対策事業」の採択を受けることができました。司会 ペット共生型を始めた理由は、田中 人はその昔、愛玩動物や家畜など動物と共生することが当たり前でした。それが高度経済成長以降、人間中心主義のもと、人が豊かさを求めるようになり、モノがあふれる時代になって、動物と共生できる住環境が減少していったのです。同時に動物を介した近隣とのコミュニケーションも減少していききました。その過程で何かなくしたものがあつたのだと考えると、現代版の「ペット共生住環境」を展開しようと思ったのがきっかけです。司会 今後、多世代共生型のシェアハウスも目指されるのか。田中 その通り。既に弊社のペット共生型シェアハウスの入居者は20〜58歳と多世代の方々が一緒に暮らしています。これは、コンセプトを「ペット共生」というように明確にとがらせることで実現していることだと思っています。明確なコンセプトがあれば世代を超えたコミュニティが形成されやすいのだということが分かりました。

田中 人はその昔、愛玩動物や家畜など動物と共生することが当たり前でした。それが高度経済成長以降、人間中心主義のもと、人が豊かさを求めるようになり、モノがあふれる時代になって、動物と共生できる住環境が減少していったのです。同時に動物を介した近隣とのコミュニケーションも減少していききました。その過程で何かなくしたものがあつたのだと考えると、現代版の「ペット共生住環境」を展開しようと思ったのがきっかけです。司会 今後、多世代共生型のシェアハウスも目指されるのか。田中 その通り。既に弊社のペット共生型シェアハウスの入居者は20〜58歳と多世代の方々が一緒に暮らしています。これは、コンセプトを「ペット共生」というように明確にとがらせることで実現していることだと思っています。明確なコンセプトがあれば世代を超えたコミュニティが形成されやすいのだということが分かりました。

日本シェアハウス協会

全国開業応援事業がスタート

設立10周年記念座談会 (中)

一般社団法人日本シェアハウス協会による座談会が5月29日、住宅新報で開かれた。同協会は来年7月、設立10周年を迎えるが、それを記念した新事業が次々と打ち出されている。座談会では記念事業の一つとしてこのほどスタートさせた「全国開業応援事業」の趣旨について、開業相談に応ずる会員社らが話し合った。



李成一氏

李 弊社は国際交流をテーマにシェアハウス市場でもそれは同じでした。そこで、我々はただ外国人のために住まいを提供するということではなく、日本の若者たちに一人でも多く「異文化交流」という体験をしてもらえる家をシェアハウスという形態で実現します。

司会 すごくいいですね。しかも勢いがある。いつから事業を始めたのですか。李 08年からです。当時は



山本久雄氏

司会 なヨーロッパやアジア圏などの外国人も多くなってきた。本会長、まして、ハウス内のカルチャーミックスが実現しています。発想です。まさに、多国籍交流ができる

グローバル化時代を担う「国際交流型」

ね。山本 同時に民間交流の一端にもなります。司会 でも、日本の若者はあまり外交的ではないと聞きますが。李 まったくそんなことはありません。皆さん、すごく積極的です。ボードレスハウスは外国人と日本人との比率を半々にするようになっていますが、弊社の事業が拡大しているという事は、外国人と接したいと思う日本の若者がそれだけ増えている証拠です。更に英語圏だけでなく、ヨーロッパやアジア圏などの外国人も多くなってきた。本会長、まして、ハウス内のカルチャーミックスが実現しています。発想です。まさに、多国籍交流ができる

(先週からつづく)
司会 それでは次に、ボードレスハウスの李成一社長に

【座談会出席者】
山本久雄氏＝一般社団法人日本シェアハウス協会会長
田中宗樹氏＝同協会副会長・オンコ(株)社長
響城れい氏＝同協会理事・(株)ダブルビーイング社長
李成一氏＝同協会東京都新宿区支部長・ボードレスハウス(株)社長
司会＝本多信博(住宅評論家・住宅新報顧問)

アシェット
日本ハウ
協会

全国開業応援事業がスタート

設立10周年記念座談会

(前回のつづき)

協会 協会は設立以来、シェアハウスと家事代行事業との組み合わせを推奨しています。シェアハウス事業を成功させる重要な鍵にもなっているようですので、その辺の事情について、家事代行会社社長で協会設立時からの理事



響城れい氏

でもある響城さんにお話を伺いたと思います。そこで、ワークシェアということに、少しでも収入を得たいという入居者の方にお願

響城 共同生活を成功させるためにどうしても必要なのが日常の生活ルール、マナー、清掃が行き届いているかどうかといったことになり

ます。山本会長も当初から生活ルールはもちろん、建物内の清掃や衛生環境の重要性を指摘され、「汚いシェアハウスは絶対に失敗する」とおっしゃっていました。

協会 私も以前、物件を視察させていただいたとき、それを痛切に感じました。響城 専門の業者さんが本格的に清掃するのは週に1、2回と決まっていますが、毎日のまめな清掃が入居者の手でできていればみんなが気持ち

【座談会出席者】
山本久雄氏＝一般社団法人日本シェアハウス協会会長
田中宗樹氏＝同協会副会長・オンコ(株)社長
響城れい氏＝同協会理事・(株)ダブルビーイング社長
李成一氏＝同協会東京都新宿区支部長・ボーダレスハウス(株)社長
司会＝本多信博(住宅評論家・住宅新報顧問)



山本久雄氏

合は規模が小さいので専門業者に頼ってもらう

家事のワークシェアが成功の鍵

のは結構厳しいと思います。

田中 私は多世代共生型RC(高齢者が健康な段階で入居し、終身暮らすことが出来る生活共同体)になれるのではないかと考えています。地方の空き家を活用してつくれば有料老人ホームやサビ



田中宗樹氏

山本 清掃に限らず、トイレレットペーパーや洗剤など備品の補充管理も事業者が任せるのではなく、自分たちでどの商品にするかなども決める

響城 私はシェアハウスが核になって地域に密度の濃いコミュニティをつくっていくことが可能なのかなと考えています。家事代行という分野でも、シェアハウスで清掃の腕を磨いた人が地域に出て行き別に仕事を見つけたら、逆に地域の高齢者などに「あそ

司会 それと、入居者にワークシェアしてもらうという考え方が時代に合っている感じがします。

山本 多世代共生型の意味がそこにあります。例えば、比較的時間がある高齢者の方が清掃や料理(食事担当)など家事的仕事をワークシェアすれば、わずかで収入を得つつ、やりがいを感じながら暮らすことができます。

司会 最後に、シェアハウスは今後の日本に何をもたらすのか、ご意見を伺いたいと思います。



李成一氏

李 弊社のシェアハウスにはこれまでに日本人と外国人で1万人住んでいたいています。そして、毎年1000人ぐらい入れ替わっています。今後世界のグローバル化がますます進む中で、英語が話せるようになりたいとか、外国人の友達がほしいという若者は確実に増えていくと思います。

私たちがシェアハウスがそのうした日本の若者たちの普遍的欲求をかなえる場所になっていくことで、日本のグローバル化に少しでも貢献できる

司会 本日は有意義なお話をありがとうございました。